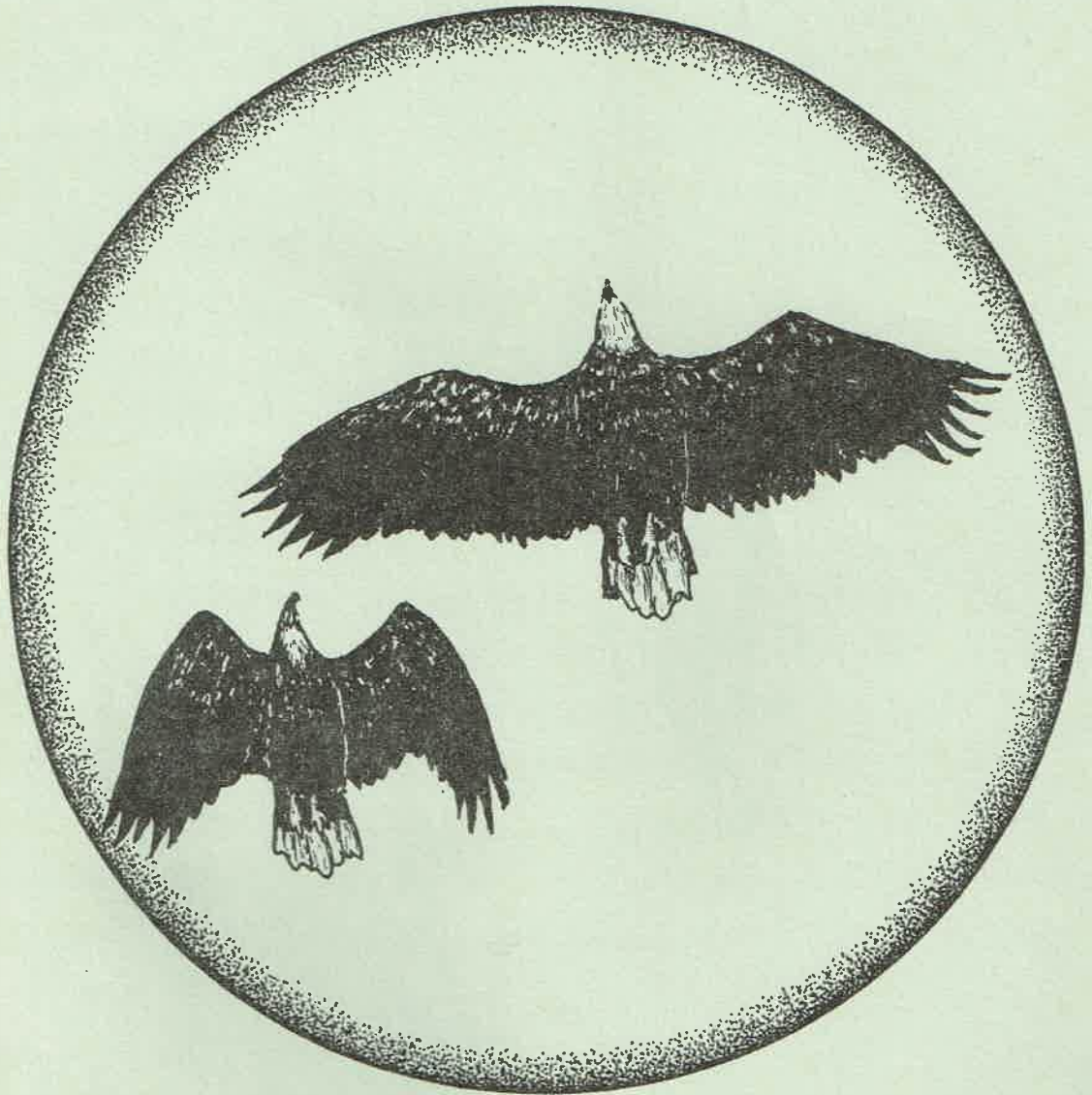


エゾマツ



No. 39

1997. 1. 20

北海道ボランティアレンジャー協議会

目次

1. 巻頭言 魅せられた自然に生きよう 会長 大友 健 (1)
2. 干支(丑)に想う・活動報告 (2)
3. 新会員紹介 (3)
4. キーワード (8)
5. 季によせて 菊池 秀樹 (10)
6. 会員の声 小山 賢一郎 (11)
7. 遊んで学ぼう環境保護 大久保 フヨ (12)
8. 弟切草(おとぎりそう) 川端 功治 (14)
9. テレマークスキーのススメ 田村 允郁 (19)
10. 本の紹介 (21)
11. 観察会研修会情報 (22)
12. 編集後記 (24)

魅せられた自然に生きよう

会 長 大 友 健

1997年の新春を迎え、会員の皆様おめでとうございます。

この会も昨年10周年を迎えただけに、更に充実した協議会になるよう誓う、最初の年でもあります。本年も会員の皆様には、益々のご活躍とご協力、多々なるご理解を、よろしくお願い申し上げます。

私は、年末に好天の一日を、神宮外苑の森歩きと決め、スキーを滑らせミズナラの木、カツラの木、センの木と巡り歩き、木々に多くを語りかけ、自然の声に耳を傾けたのである。

静かな冬の森は、人間では計り知れない不思議な力を、改めて教え見せてくれるのである。雪上に残された動物たちの足跡、食べた跡から野生の世界が広がり、そうして関連が展開して行くことは、ナチラリストの皆が経験し、見えてないものが見えて来るものである。

ご承知のとおり、動植物と微生物からなる生物社会と、それを取り巻く環境は生態系と言われ、複雑な関係を保ちながら、釣り合いを取っているのである。年々、生活環境がらみで、自然の開発に伴う破壊か、保全か、保護か問題事項の多い世代のなかで、私たちは環境としての、植物を愛する人生を歩んでいるとも言うべきで、自然に魅せられ、ボランティア活動としての、自然解説を通じて、人々を森に誘い、多くの感動を得ていただき、自然の保全と保護ということに、深い理解をしていただくよう努めている。

最近では、登山教室、自然観察に関する講座、そしてツアーバスが自然志向の人々をとらえ、案内人付きで秘境をも訪れやすくなっている。

私たちも、時の流れに沿いながら、機会をとらえ参加意欲を高め、見聞を広め植物のプラキストン、ラインを越え温帯の自然に魅せられる喜びに浸りたいと思うのである。ブナの原始林を手はじめに～～

干支（丑）に想う

平成9年の干支は丑（牛）です。牛が描かれた年賀状が沢山届いたことと思います。牛は偶蹄目ウシ科の哺乳類で、家畜のなかでも最も古くから飼われていたものの一つであります。

家畜化されるかなり以前は、もっと体が小さい動物であり、5本の蹄を持ったキツネくらいの大きさの小動物に起源を発するといわれています。この小動物は、やがてウマの先祖になったものと、ウシの先祖になったものとに分かれていきました。

ところで、牛にまつわる諺は数多くあります。例えば、牛に経文（役にたたぬこと）、牛に食らわる、牛の一散、牛の涎、牛を馬に乗り換える、等々よい意味に使われるより、悪いたとえに使われていることが多いようです。

「牛の歩み」との言葉があります。ところで、ボラレンの今年の歩みはどのようなのでしょうか。仮に、牛の歩みであっても、会員による着実な歩みを望みたいものです。

9月以降の活動

- 9月 1日（木） ・「野幌の自然観察会」 森の自然教室前 集合
- 9月29日（日） ・「利根別の自然」観察会 岩見沢市利根別自然休養林
- 10月20日（日） ・森林公園事務所主催「秋の森の観察会」協力参加
- 11月17日（日） ・「野幌の自然観察会」 開拓記念館前 集合
(11月10日 下見)
- 12月 5日（木） ・森林公園事務所主催「12月の森の観察会」協力参加
(12月3日 下見)
- 12月18日（金） ・役員会 於：かでの2・7
- 1月 9日（木） ・森林公園事務所主催「1月の森の観察会」協力参加
開拓記念館前 集合
- 1月20日（月） ・広報誌「エゾマツ」39号 発行

新会員紹介

旭川市 渡邊 儀 明

私は平成8年度のボラ・レン育成研修会に参加、同時にこの協議会へも入会させていただきました。わたしは現在旭川に住んでいますので、札幌で開催される自然観察会への参加はなかなか出来ず残念です。

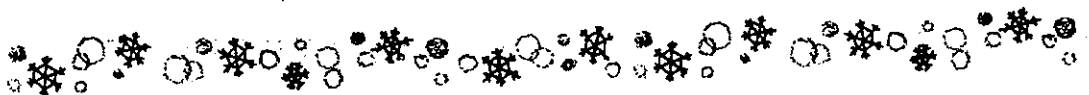
各地方の協議会会員の方々はどのように活動しているのでしょうか。また、活動しているフィールドや活動状況をもっと教えて戴きたいと思います。

旭川近郊でも自然観察が出来る施設があります。それらをフィールドに旭川支部として活動出来ればよいのですが…。居住地に近い所でボラ・レンの活動を、細く長く続けて行きたいと考えております。

札幌市東区 小 泉 三 雄

野幌公園に飛びこんで行き、私の目に映じ、耳に聞こえ肌に感じるものを素直に観察しています。自然の中では、私達の想像をはるかに越え、とうてい人間がつくりだすことのできない完成された作品があります。そして、魅力的で非常に複雑な関係でドラマが展開されています。

自然についての知識を深め、多くのものを学びとるには、図鑑や書物等読んだだけではだめで、実際に野山に出かけ実物に親しみながら接し解きあかすことのおもしろさを味わっています。



ぜひ十勝支部を

清水町 下 関 誠

私が自然に関心をもちだしたのは8年前、田舎暮らしをしようと場所を探して、町へ、村へ。でも行けども行けども畑ばかり、ある場所は頂上の畑に電力で水を引いている。「これは何か変だなっ」と気がついたのがきっかけでした。

当地は森林面積が50%以下。農地には熊や鹿が出没、防風林も機械化農業のさまたげということで次から次へと消滅。

自然環境保全、共生の理解を深めてもらう為にも、当会の十勝支部結成し活動を望みます。

江別市 阿 部 徹

野幌原生林の観察会に、何回か参加して、身近な自然に触れ、その素晴らしさと大切さを痛感しました。と同時に、いつも森の案内人である、ボランティア・レンジャーの人達のお話に感心させられていました。

「どうしてあんなに自然について、わかりやすく解説できるのか…」この思いがずっと続いていました。その後、林内でフクロウに出会ったり、カツラの葉の匂いに感動したり…。

あせらず、活動を続けていきたいと思います。

札幌市南区 佐 藤 雅之輔

研修会は楽しく勉強させて頂き本当にありがとうございました。あの後たった一回だけ野幌森林公園の観察会に参加したものの、予定していなかった現住所への転居や中国（北京、西安）への研修旅行などがあったため、全く勉強することなく年末を迎えてしまい、先輩の方々に申し訳なく思っています。

来年は、何とか一回でも多く参加し、勉強したいと考えております。



札幌市西区 鹿野 隆

私が初めてボランティア・レンジャーの方にお会いしたのは、藻岩山でいつもビニール袋にゴミを拾いながら登山している姿にふれ、その方の腕章を見て知ったのでした。幸い今年の研修会に参加させて頂き私なりに出来る事もあるのでは……と入会しました。

その後二度の研修会も都合がつかず失礼していました。これからも、夏・冬の山行はもちろんの事、学習の機会を逃がさず、大切な自然保護の為少しでも役立つような事をしたいと考えて居ります。

千歳市 土屋 浩二

育成研修会を受講してから早や五ヶ月。その間、秋までには一人前の解説員として先輩の皆様と伍してやっていける様に、基礎的な知識を身につけるべく努力してきましたつもりですが、実のところ力不足を痛感しております。

今後は色々な催しに積極的に参加し、会員皆様との交流を深め、知識や指導法等を身につけたいと思っています。

12月7日、胆振支庁主催の実践ゼミに参加してきました。天候に恵まれ有意義でした。今、庭には、シメ、シジュウカラ、ヤマガラ等が姿をみせ、色々と勉強をしています。

札幌市東区 山崎 富司

自然が大好きなのですが、しかし、内容的にはさっぱり理解しておりません。そこで、「自然」についてすこしでも知識が深まればと今回の研修会に参加させて頂きました。

これからも、皆様に多くのことをご指導いただければと思っております。今後とも、よろしくご指導くださるようお願い申し上げます。



新得町 加藤 幸夫

ボランティア・レンジャーの第17回研修会が平成8年7月19～21日の日程で月形町で開催され、その折りに受講させていただき、引き続きこの会に参加することができました。私は、当町の山岳会に所属し常に自然に入ることが大好きで、東大雪地帯に登山すること数回あり、行事の際には引率を積極的に引き受けていたところがあります。

この受講後は、この協議会の行事等に積極的に参加し、なお且つ、地元の行事には機会ある毎に協力して参りたいと考えております。

下川町 宮田 修

今日もカニを腹一杯食べた。「ウマカッタ」カニの好きな人は毛ガニかズワイガニかタラバガニか、はたまた花咲なのか、ちょっと気になるかな？

実は一箱12ハイ入り三千円のズワイガニで、足を多少失っているのもあるし、見入りもちょっと悪い。

さて「自然環境」と一言で言うが、その構成は複雑多岐であり、個々が連想する事柄も違って当然である。バランスよく絵になる風景は観光地として価値を付け、外見から簡単に見過ごす雑然としたところは所は表現すら難しい。

足が四本ちぎれてもカニはカニ。腹一杯食べれば満足する家族で良かった。

当別町 目黒 敏弘

平成8年度ボランティア・レンジャー育成研修会を修了し、新会員とし皆さんの仲間入りすることになりました。よろしくお願い致します。

最近では自然保護、環境保護の高まりで、自然との付き合いを深めている人々が増えている事に感動をおぼえます。そんな中で、小学生も含め年齢層を幅広く自然に親しみ価値観を強く感じるそんな人達を一人でも多く育てる協力者でありたいと思っていますところですよ。



岩見沢市 久保 勉

今年3月を以て高校教員を定年退職し、今年7月のボラレン育成研修会の参加をきっかけに当協議会に入会させていただきました。

現職時の仕事が草花、庭園樹木など園芸指導の農業教育全般でしたので、多少でも広く山野草や自然樹木にも関連があるかと思っています。

自然こそ私たちのかけがえのない貴重な財産であり、大地を守り、緑に親しみ、自然とのふれあいを大切にしたいものです。今後ともよろしく願いいたします。

平成8年度のボランティア・レンジャー育成研修会を修了され本会に入会された方々を38号で紹介いたしました。手違いで岩見沢市の久保勉氏を紹介いたしませんでした。お詫びいたすと共にここで改めてご紹介いたします。

平成8年度、22名の方が入会され、今回12名の方々より短信をお寄せいただきました。

北海道の森林メモ

北海道には、全国の森林面積の2割を超える豊かな森林があり、その6割は天然林であると言われています。1995年度の北海道林業統計によると、森林面積は558万㊦で、全国の22%を占めています。そのうち天然林は64%の357万㊦です。

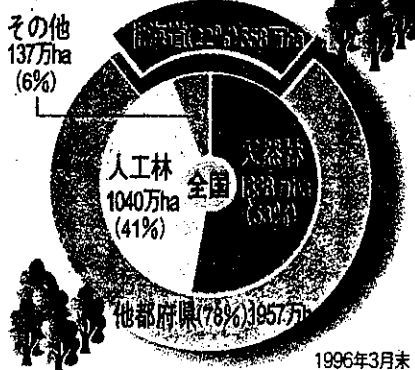
昨年4月に公表された「緑の国勢調査」の結果では、天然林の中でも樹木が密集するなど、より自然植生が高い「自然林」について全国の約6割が本道にあります。

昨今、森林に対する関心が高まり、また森林に対するニーズも多様化していて、レクリエーション機能や水資源、生物の生息域確保などを重視する時代になりました。

(北海道新聞 1月1日による)

森林の面積

その他
137万㊦
(6%)



他都府県(78%)1957万㊦

1996年3月末

キーワード



0-157

1996年7月大阪府堺市で発生した病原性大腸菌「0-157」による食中毒は、全国各地に広がり、北海道でも帯広市、旭川市、札幌市でも発生しました。現在は沈静化していますが、今後発生しないという保証はありません。私たちは「0-157」についての恐ろしさは認識していますが、科学的な知識は意外と持ち合わせていません。そこで「0-157」についてQ&Aの形式でまとめてみました。

Q: 病原性大腸菌「0-157」はいつ見つかったのですか？

A: 最初に患者が報告されたのは、1982年アメリカオレゴン州とミシガン州で発生したハンバーガーによる食中毒事件です。その後、アメリカだけではなく、カナダ、イギリス、ドイツ、オーストリア、イタリアなどで食中毒の原因になっています。

日本では、1990年に埼玉県浦和市の幼稚園において、給水施設の管理不備のため井戸水が0-157に汚染されて、死者2名を含む患者268名が初めて報告されました。

Q: 病原性大腸菌には、どういうものがあるのですか？

A: 大腸菌の中には、下痢や腹痛を主な症状とする食中毒を起こす種類のものがあります。この食中毒を起こす大腸菌を「病原性大腸菌」と呼んでいます。病気の起こし方によって、次の5つに分類されます。

①腸管病原性大腸菌 ②組織侵入性大腸菌 ③毒素原性大腸菌 ④ベロ毒素産生性大腸菌 ⑤腸管凝集性大腸菌

Q: 病原性大腸菌「0-157」とはどんな菌なのですか？

A: ベロ毒素産生性大腸菌の一つで、アメリカではベロ毒素産生性大腸菌が原因の食中毒の内約80%は0-157が原因です。厚生省では、大腸菌0-157のDNA分析をおこなった結果を3つのグループに分けています。死亡者をだすような毒性の強い菌は「大腸菌0-157:H7」と細かく分類されています。

また、O-157は牛などの家畜の腸管に存在することが知られていて、糞便中に時々見つかります。

Q: O-157の「O」とはなんですか？

A: 大腸菌はO抗体といわれる細胞の一番外側にある糖脂質の型により細かく分類され、現在は173種類に分類されています。O-26とは、26番目に見つかり、O-157とは、157番目に見つかったO抗体を持つ大腸菌という意味です。

Q: ベロ毒素とはどんな毒素ですか？

A: ベロ毒素は赤痢菌が生産する志賀毒素と似ており、志賀毒素様毒素とも呼ばれています。この毒素は細胞内のリボソーム（蛋白質を合成する装置）の働きを妨げる作用を持ち、主に腸管上皮細胞を死滅させることにより、鮮血便を排泄する腸管出血性大腸菌感染症を引き起こします。

この毒素は、大腸菌の出す毒素のうち最も強力な毒素です。しかし、熱に弱いという性質を持っています。従って、肉などに付着していたとしても、熱を通すことによって、毒素を無害にすることができます。

Q: 溶血性尿毒症症候群（HUS）になると、どんな症状になりますか？

A: HUSは、血液中の赤血球が破壊されることによる貧血、腎機能低下による尿毒症症状、血小板破壊による出血傾向を3つの特徴としています。

O-157感染の有症者の6～7%にHUSが見られます。この場合、下痢、腹痛などの初期症状が現れて数日から2週間後にHUSを発症することが多く見受けられます。症状は、高血圧、浮腫、乏尿または無尿、蛋白尿、血尿、黄疸、出血斑、けいれん、意識障害等です。

Q: 大腸菌O-157の感染力はどのくらいの強さなのですか？

A: 大腸菌O-157はわずか100個でも感染すると言われています。腸炎ピブリオやサルモネラのような食中毒菌が100万個～1000万個でないと感染しないことと比べると大変強い感染力があるといえます。

酸性条件でも比較的強く、口から入った場合に胃酸で殺されるということはありません。低温状態にも強く、家庭の冷蔵庫の中でも生き残る菌があると考えられています。しかし、感染経路は経口感染に限られています。

季によせて

札幌市 菊池 秀樹

先日（1月4日）に、お屠蘇気分を消すために、仲間と野幌森林公園に行って来ました。歩くスキーという不慣れな用具のおかげで、じゅうぶんに汗をかき、しっかりとアルコール分を発散させることができました。

一年の計を森の中で過ごし、今年もボランティア・レンジャーの皆様と共に活動ができる喜びに浸ることのできた一日でした。そして帰宅後は家族にせがまれ、百人一首で遊んだ一日でもありました。

ボランティア・レンジャーと「百人一首」。一見何の脈絡もない組み合わせなのですが、これが結構いけるのです。お正月のおめでたさに免じて、ちょっとゲームをしてみませんか。もちろん、かるた取りではありません。

問（1）「百人一首」、即ち百首の中で、人間以外の動物や植物を詠んだ歌は何首でしょうか。

問（2）そのうち、動物は何首で、植物は何首でしょうか。

問（3）最も多く詠まれている植物は何でしょうか。

《答え》

問（1）41首

問（2）山鳥、鹿（2首）、かささぎ、鳥、千鳥
ほととぎす、きりぎりす、植物33首

問（3）もみじ（5首）、桜（5首）、松（3首）
稲、も草、芦（それぞれ2首）

いかがでしたでしょうか。但し、この答えは、動植物を直接詠んだ歌だけであり歌の読みようによっては答えに変動が出ますのでそのあたりはご勘弁下さい。

また、あの艶っぽい「乙女の姿しばしとどめむ」の歌については、悩んでおります。この「乙女」は「天女」であり、我々人間の仲間として認めるかどうか判断に迷うところです。この件につきましては、皆様からの多数のご意見をお待ちしております。

《お問い合わせ先》 TEL・FAX 791-5815 菊池

それにしましても、私たちの先達は、本当によく自然を身近にとらえていたものです。そして、そのとらえた自然を自らの身体の中に迎え入れて更には別の生命



力として表現していたのです。何とすばらしいことでしょう。

春は花夏ほととぎす秋は月

冬雪冴えて冷しかりけり 道元

この歌は、故川端康成先生がノーベル文学賞を受賞されたおりに「美しい日本の私」という第での講演の冒頭に引用されたものです。私にとっても、野外に出る時についつい口ずさんでしまう歌なのです。

話はずもどりますが、新雪の森を歩き、美しい森林公園での一日。私自身もすっかり、「美しい日本の私」に酔った気分になってしまいました。

会員の声

札幌市 小山 賢一郎

自然にかかわる集会で印象に残るものが2つありました。その一つは、夕張岳の天然記念物指定決定の全道報告集会在夕張市で開催されました。2日間にわたるものでしたが前日夜の交流会には参加しませんでした。楽しく有意義であったであろうことが推察されましたが、それでよかったと思っています。

もう一つは、札幌市環境保全部主催による「環境シンポジウム」でした。「持続可能な社会づくりのためのパートナーシップを求めて」というテーマでした。

百人余りの一般参加者を5つのグループにわけて、会場（ホテルKKR）周辺を歩きながら、具体的な柱を決め討議を積み上げてまとめるというユニークな形式でした。私たちのグループは14名でした。

“大気汚染” “車の洪水” そして “ゴミ問題” と3つのテーマで協議がすすめられ、“行政、企業、市民” それぞれの側での環境保全努力の条件が提示され、相互の協調による改善の策と同時に参加者一人ひとりがどう自ら構築するかが求められ、たとえば、自動車（マイカー）の都心乗り入れの自粛、タバコのポイ捨てをやめる等、他者からいわれてではなく、自分から「やめる努力をする」という発言なども飛び出して、思わぬ成果といえますか雰囲気でした。

自然に限りませんが、ある計画したことがどれ程成果（実践）をあげても根本的（根源的）なことがおろそかになっては、それは“本末転倒”だと以前より思って来たそのことが、今回のシンポジウムで確認できた想いです。

遊んで学ぼう環境保護

北広島市 大久保 フヨ

私たちが子どものころは、学校から帰るとカバンを放り投げて友達と遊びに行っただけです。勉強は学校でするもの、家では遊ぶものと、まさに「良く学び、よく遊ぶ」でした。こうして、遊びを通していろいろなことを身につけてきたのですが、現在はどうでしょうか。学校でも勉強、家に帰っても勉強と強いられ、子どもたちは思い切り遊ぶことができないのが現状ではないでしょうか。

私の二人の子どもは「遊びは子どもの生命」をモットーに育てました。ほかの子が塾に行っている時、私の子どもは外で思い切り遊んでいました。沢へ行っておたマジャクシを捕まえてきたり、林に入ってクワガタを捕まったり…。

林は自然の教室そのもの。そんな豊かな自然の中で生活しながら、ほかの家庭ではどうして子どもたちを自然の中に置いてあげないのか不思議に思ったものです。

春休みも冬休みも塾の特訓や補習に明け暮れる子どもたちはかわいそうです。花や虫の名前も知らず、トンボさえ自分の手で捕まえたことがないなんて…。虫の自動販売機も出てきた現在です。そんな子どもたちが大きくなった時、日本の環境問題はどうなっているのか考えると不安がいっぱいです。

地球環境が問題になっている現在、環境教育は大切なはずなのに、学校教育では積極的に取り組んでいません。元札幌平岸中教諭の三田村慎治氏は著書「楽しくなければ学校でない」で、環境教育について次のように述べています

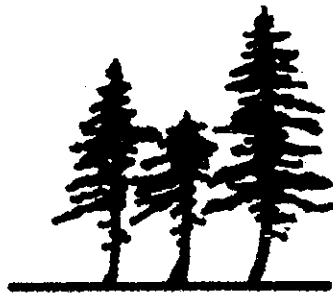
「自然保護や環境保護団体が、独自の発想や計画で環境教育のプランを練り、これに自然教室のような形で各学校や各教室ごとに子どもたちが参加するようになれば、学校ももっと面白く楽しいところになるだろう。だが、今のわが国で行われているのは、これとは全く逆のゴルフ場建設など大規模な環境破壊である。欧米に見

られるようなナショナルトラスト運動もほとんど育っていない。かけがえのない地球を守り、子どもたちの明日のためにも環境教育は急がなければならない」と。

私もその通りと思います。北海道自然保護協会の一員として、ボランティアレンジャーの一員として、未来を担う子どもたちとともに環境問題を考えて行きたいと思っています。自然を守ることは子どもを守るからです。

平成6年8月18日付 北海道新聞に掲載された大久保さんの一文を御了解のもとに取り上げました。

大久保さんは、地元、北広島市の環境保護について積極的に活動されていて、去年は、環境に関する音楽会を主催されたり、写真展を行っています。



自然観察会や環境問題に積極的に取り組んでおられる会員の方々の情報や各地の団体の主催する自然に関するニュースをお知らせください。「エゾマツ」に掲載していきたいと考えています。

連絡先 〒 003 札幌市白石区川下5条2丁目4-32 事務局長 佐々木幸夫 ☎ 011-875-6602

〒 065 札幌市東区東苗穂11条2丁目897 広報部 田村允部 ☎ 011-791-0127

弟切草 (おとぎりそう)

札幌市 川端 功治

王朝の昔、花山院の時代に、鷹を放って狩りをする催しが流行り、奨励もされた。乗馬の武士や、徒歩部隊が山野を駆け巡り、獲物を殿様の近くに追い立てると、側に神妙に控えている鷹匠に、号令が下される。殿様の采配が一閃すると、鷹匠の手から放たれた鷹は、矢の様に飛び獲物に襲いかかる。それは武人達の血湧き肉踊るの一瞬であつたらう。

平和な時代が長く続くと、とかく弛み勝ちな武士道に活を入れ、士気を鼓舞すると共に、自領地内の民情視察をも兼ねて居るので、鷹狩りの行事は広く行われた様である。

ところで鷹狩りの立役者は、何と云っても鷹である。何時なんときでも、殿様の御下命に即応出来るように、トレーニングを怠らない事は勿論、健康の管理が最も大切であつた。しかしながら鷹は生き物と闘う訳だから、傷付き易く、その手当ての方法は、それぞれ鷹匠の秘中の秘であつた。常に鷹が元気で居ると云うことは、その飼主である鷹匠が、殿様の覚えも愛でたく、鷹狩りの側近として高録で待る事は最高の荣誉であつた。従つて鷹の傷薬となる漢方薬、即ち薬草の処方が秘伝であつて、その探り合いに、凄まじい暗闘が繰り返されたと云う。

当時晴頼と言う鷹匠には家伝の薬草があつて、何時も鷹が健康であつたから、殿様の覚えめでたく、一家は繁栄していた。ところがその鷹匠に弟が居り、この弟に恋人が居たが、なんと商売仇の娘であつた。この娘は孝行者で、兄晴頼が極秘にしている鷹の薬の秘密を盗み、教えて呉れるようせがんだ。弟は愛する女の為に目がくらみ、その秘密を盗んでこっそり娘に洩らしてしまった。

秘密を知った其の鷹匠の家業は繁盛し始めたので此を訝った兄は弟を問い詰めたところ一切を白状してしまったから、激怒した兄は弟を、一刀の下に切り捨てた。その時血が飛んで付いたのが秘伝の薬草であつたのである。

このことから人々は、その草を(弟切り草) (オトギリソウ) と呼ぶ事になった云われる。その証拠にその草の葉を太陽に透かして見ると、点々と血の跡が黒点となって見えるのだとされている。

以上が諸説の多い民話を整理してみたものであるが、史実として伝えられているのは、次ぎのとうりで、男女関係に触れていないところが気になる。

正徳3年(1713年)和漢三才図会(わかんさんさいずえ)寺島良安発行に記載されているのは「相伝う(あいつたう)花山院の朝(みよ)に鷹飼あり、晴頼と名づく、その業(わざ)に精しきこと神にいる、鷹傷を被(こうむる)ること有りせば、草をもみて之に傳(つ)くれば則(たちまち)ち愈、人乞うて草の名を問えど、之を秘して云わず、

然るに弟有り密かに之露洩(もら)す、晴頼大いに念(いか)り之を刃傷す、此れ自(よ)り鷹の良薬たることを知り、弟切草と名付く。」とあつて、男女関係があつてこそ、物語に潤いが増そうと云うものである。従つて民話伝説は後年に尾びれが付いたものとおもわれるが肉親の兄が、かけがえの無い弟を切ると云うことは、如何にきびしい掟が有つたにせよ残酷に過ぎる。少しく息をぬくために、ユーモアを折り込んだのが、後述の偶然発生した私説は、伝承に値する程では無いが、応用価値は有ると思うが。

その前にオトギリソウの薬効について知る必要がある。

薬草の元祖中国ではヒメオトギリを「田基黄（でんきおう）」と称し、打ち身、損傷、蛇咬傷、湿熱黄疸、小児の消化不良の治療薬とし、同じ仲間のトモエソウに就いて清の時代に「植物名実図工」（1848年）湖南連翹（れんぎょう）の名で収載され、止血、解毒、消腫、に効あり、頭痛、吐血、打撲傷に用うとある。

日本でのオトギリソウの薬草歴は止血、収斂薬として創傷、打撲傷、痔に外用、花を乾燥したもの等を、黄疸や水腫に煎じ用いられている様である。徳島県の祖谷（そや）地方では、オトギリソウを乾かして刻み、焼酎に漬けておき、リウマチや神経痛で痛む懸念がある時、これを飲んでおくと、あまり痛みが出ないと云う。だが牛がこの草を食すると脱毛症になり、人間がこの青汁を飲んで、日光に当たると、皮膚炎を起こすと、されているが、この祖谷地方のオトギリソウだけは問題なしとされているのが不思議だ。アルコールに10日間漬けたものは水虫に効くとされているが、試用の価値があるか、どうか。

欧州では聖ヨハネの草と呼んでいて、根に赤い点があるのは、聖ヨハネが首を切られた時（8月29日）飛んで付いた血の跡であるとされている。それで聖ヨハネ祭の前夜聖ヨハネ草（オトギリソウ）を摘み、戸口に飾ると魔除けになると信じられている。

油点（黒点、明点）にはタンニンが多くアントラキノン（黒紫色色素）系のペピリンを含む有毒物質があり、牛の脱毛はそのせいではないかと言われているのでジンやホワイトリカーに、干して刻んだオトギリソウを入れ、3-5ヶ月で爽やかな薬川酒になることになつていても、なんとなく手を出しかねる。

一昔前の農家の人達は田畑の付近でオトギリソウを簡単に採ることが出来た。鎌等で負傷すると、すぐオトギリソウを採んで張り付けると言う人に聞くと、効き目は保証しかねるが、昔からの習慣だと言う。そうすると傷薬として、亦た伝来の漢方薬として古くから使い慣れた薬草が、意外にも鷹に効くことを発見した祖先が、秘中の秘として伝えたのは、あまりにも身近な草であつたから、露見すれば瞬時に普遍化してしまう事を恐れたのではないか。白刃を振りあげた兄晴頼鷹匠の無念さが判るような気もする。

世界に分布するオトギリソウの仲間は300種、日本では50数種と稱されているが、それぞれの薬効の差異を調べた物は無いので、同一の取扱いで良いと思うが、野外観外察で見られる特徴を、資料から漁ってみた程度で、あまり役に立たないかもしれないが、列記する。勿論まともに分類同定するとすれば、極めて困難な種類であることを覚悟しなければならぬ事を、北大伊藤浩司教授は「北海道の高山植物と山草」で次ぎの様に述べて居る。

「オトギリソウは変異の大きい植物群である。植物体の大きさのみならず茎葉の形や生育型なども変化が大きい。ことに盛夏の時期の良い環境で生育している固体と、初秋-晩秋にかけて樹陰地でみかける固体とでは一見して別種の感をあたえる。分類の基準は葉や萼片、花弁における黒点線や明点線の分布、花柱：子房比などにあるが、これらの形質にも変化が多いので、総合的に判断しなければならない」と。

野幌森林公園で見られるのは、次ぎの3種類である。

*オトギリソウ

茎を抱く対生葉の基部は、広くて其の縁には黒点があり、黄色の花弁や萼に黒線有り日当たりの良い山地、草地、低地に多く、此が伝説の薬草である。

*トモエソウ

花径が3-6センチの大型な黄花。花卉は鎌型で5枚が渦を巻いた様に巴型になるので、他に紛らわしい花は無い。葉に細かい明点が多い。山野の草原に産する。

*ミズオトギリ

葉の基部はやや茎を抱き、明点がある。花径は1釐で愛らし淡紅花、黄一色の仲間で正に紅一点。湿地、水辺に多い。

特殊なもので、判り易いのを先に挙げておくと後が整理し易い。

*タイセツヒナオトギリ

昭和天皇に御覧にいられたと云う(昭和43年)地元の自慢の名花、大雪山の高原温泉の裏手散策路付近に在って、日本で唯一の生育地。花径1釐愛らしい花、花卉に黒線、縁に黒点がある。

*コゴメバオトギリ

ヨーロッパ原産の外来種。名の通り、葉は1, 2-1, 4釐幅2, 5-4, 0ミリの小型で、多数の明点と少数の黒点がある。道路の切り取り面、縁等に多い。黄花弁は歪んだ楕円形で、浅い波状の鋸歯紛いの縁が、目立った特徴であつて、一列に黒点が並び明点や明線が散在して黒点も混じる。

*オオカナダオトギリ

北アメリカ原産で道内各地に帰化している。黄花で花径は7ミ、葉の長さ2-3釐、幅3-10ミで、小明点多数、草丈30釐で全体が灰白色。

*エゾオトギリ

茎に明瞭な稜線があつて、その上に黒点が並ぶのが、この種の特徴である。葉の長さは10-25ミ、小明点が密に在り、縁に黒点が並ぶ。花卉、萼、共に明点明線があり黒点が混ざる。

以上はそれぞれ判り易い特徴があつて、同定に難儀する事は無いと思うが、次ぎの種類は変化するものが多く、時には同種異名ではないかと疑うこともあるが、それは自分の不明を曝すだけだと自戒している。願わくば地方各地のレンジャーの方々による研究の成果を簡明な検索表に纏めて公表されん事を切望する。ともあれ手元にある資料を羅列してみたい。

*ハイオトギリ

高山性で登山家にお馴染みの花。地下茎が長く伸び、斜開する分枝が盛んで、5-25釐の茎を多数立てるので、這つているように見える。葉は半ば茎を抱き、苞、花卉、共に黒点が多い。花柱(雌しべ)の長さ=子房の長さ(この対比で同定する作業は煩わしい)

*イワオトギリ

ハイオトギリの変種とされているが、それは学名上のことで、実質はその逆ではないかと言う説がある。そのせいか全草がハイオトギリに比べて、やや小ぶりと云う感じ位で特徴を指摘し難い。

*トウゲオトギリ

ハイオトギリの近似種で、釧路の産。萼や花卉に黒線がある。

*サマニオトギリ

ハイオトギリの近似種で、アポイ岳週辺の岩礫地や草地に産する。草丈20釐位。対生の葉は楕円で、縁に黒点が多く、網目状の葉脈が目立つ。萼と花卉に明線があり黒点が無く花柱(雌しべ)は子房の1.7倍ほど長い。黒点のみの種類は*ホロマシオトギリと云う

*エゾヤマオトギリ

大雪山に産する。花柱(雌しべ)は子房より短く、花は小型。

*ヒメトモエソウ

山野に分布、草丈1尺内外、葉の長さ9釐幅2.5釐は大きいほうで全面に小明点を散布、花柱（雌しべ）は5本、長さ4釐で子房は6釐。

*オシマオトギリ

渡島、後志、石狩地方に分布。草丈30—70釐、葉幅は狭く、長さ3—6釐、基部はやや茎をだき、黒点があり、小明点が混じることもあり、縁に黒点が並ぶ。苞は線型、萼は狭片で黒点と黒線がある。花卉には黒点があり、明線が混じる。花柱は2.8—5釐子房より長い。

*マシケオトギリ

手塩、暑寒別、後志、渡島、北見に分布。オシマオトギリに近似するが、萼と花卉に黒線が無く、明線が有る。花柱が長く、葯は0.8—1釐と大きいという特徴がある。

萼片に黒点のあるものを*キタミオトギリと云う。

*ホンドオトギリ

芦別岳に産する。イワオトギリに近似するが、萼片の黒点は内部に多く、葉に黒点のみ分布する。

*ヒダカオトギリ

日高山地に産する。イワオトギリの近似種。花柱の長さが子房より約2倍長い。

*ヒロハオシマオトギリ

オシマオトギリの近似種で、葉幅が2.5—3釐に達する広い葉のものが分離された。

*メイテンオシマオトギリ

函館山に分布する。葉の黒点と明点が混じるものを、オシマオトギリから分離された。

*サワオトギリ

道西南部に分布。山地の湿原や流れのほとりに生える。草丈70釐にもなり、葉には短柄があって、茎を抱かず、全面に明点があり、縁には黒点がまばらにある。萼片に明点と明線があり、花卉にもあるが、時には無線のこともある。花径1釐と小さく、花柱1.3—2釐で子房よりいちじるしく短い。葉の短柄が大切な注目ポイント。

*コケオトギリ

十勝地方以南に分布。草丈10釐で湿地に生える。葉の基部はなかば茎を抱き多数の小明点がある。花径5釐の小花、花柱（雌しべ）は0.5釐で子房より、遙に短い。グランドカバーとして園芸家が栽培利用している。小型の卵形葉が愛らしい。

以上23種であるが、更に細分されているかも知れない。某植物老学者は「近頃の若いもんは、やたらに細分したが。功名争いもいい加減にして欲しい。」と嘆く。

けれども、一面われわれ一般人にとっては便利な事もある。例えば「ヒロハ・・・」とか「アカバナ・・・」等は名は体を現して有り難い場合もあるが。

ある登山会に参加して、無事登山を終え、帰りの貸切りバスの車中の事である。乾杯につぐ乾杯、山の歌から街の唄。大変に盛り上がった所で各自それぞれ感想、反省、明日への希望等を述べる一人一話のマイクが廻され、私は山で見てきたオトギリソウの名前の由来を語った。そして最後の締め括りで、気分が入り過ぎてしまった。「エイッと兄は刀を振り下ろして、弟を切り付けた。サッと飛び散った血はオトギリソウに付き、白血球は彼方のトモエソウに付いた。（勿論そんな史実は無いです）。であるから皆さん、今日山で見て来たオトギリソウの葉は太陽に透かしてみると、黒い点があり、トモエソウは明点（透明点）があったでしょう」と結んだ。ところが直ちに質問の手が上がった。

「簡単に血が赤血球と白血球とに分かれるものですか」グッと詰まった私は「ソレ昔

から云うでしょう、血を分けた兄弟、と」。失笑、爆笑、「了解、了解」の助け船が出て一件落着と思ったが、これが意外や後に曳くことになった。

それから数日後良く晴れた日、気晴らしのつもりで手稲山に登り、平和の滝を目指して下った。途中布敷の滝の岩頭に咲くオトギリソウが気掛かりだった。通り掛かりの登山者が、花を筆で行くので、年々見すばらしくなっているが、今年はどうか。それに加えて先日の登山会の帰りのバス車中、このオトギリソウ群落を愛護するよう訴えた事もあって、その現場に立ち寄る事にした。所がそこに近づいてみると、一人の中年男性が、何かを探している風情なので言葉を掛けてみた。ところが「トモエソウと云う草を探しているのでオトギリソウはあつたんですが」更に聞き糺すと「家内が登山の帰りバス車中でオトギリソウの由来を聞いて来たのですが、斬って飛んだ血の白血球が着いた草がトモエソウとか、聞けば川端と云う方の解説だそうで」。驚いた私は「その川端はこの私です」と名乗りを上げたところ、「奇遇だ、奇遇だ」と繰り返して「有り難い事です、是非もう一度私にもお聞かせ下さい」「車でお宅までお届けしますから、どうかお願いします」がくして私はづるづると車に乗ってしまった。アルコール抜きのアアルコールは誠にしんどいものであつた。それでも「有り難うございます」「実は私は北大薬学部勤務する者で本日は大変に参考に成りました」。私はプロにお説教していた事になる。腋の下に汗する思いを慰めるかのように「近代医薬の70%は薬草もしくは其の成分を化学合成したものでありますなん百年に亘る生検（人体実験）は貴重なデータです。トモエソウと白血球の組み合わせは奇想天外です、有り難うございました。」丁重に頭を下げてその車は走り去った。もしかして何かのお役に立ったなら怪我の功名であろうが、あれから何等音沙汰が無い。

あれや、これやで身近になつた感じのオトギリソウを、尋ね歩く旅に出てみたい気がしている。オトギリソウは人をして、そんなロマンに誘う気だての優しい野の花なのです。

参考書「日本の野生植物—平凡社」「北海道植物図鑑—原松次」

「山の図鑑夕張岳・アポイ岳—梅沢俊」

「北海道の高山植物と山草—伊藤浩司」

「NHK人間大学漢方生薬の謎を探る—難波恒雄」

「園芸植物大図鑑—小学館」

他

テレマークスキーのススメ

札幌市 田村 允 郁

今年の道央、特に札幌は雪が極端に少なく、日常生活では楽をしています。雪不足を嘆くのは、2月上旬に開催される札幌雪まつりの関係者、そしてスキーヤーのようです。

上手、下手はさておき、スキーは大変楽しい冬のスポーツです。ゲレンデをカラフルなウェアをまとい滑るアルペンスキー、また愛好者が増えつつあるクロスカントリースキーは、それぞれのスキーの特性と興味に応じて楽しむことができ雪国に住む者の贅沢な遊びと言っていいでしょう。

さて、最近、ゲレンデで変わったスキーヤーを見かけないでしょうか。スキーを前後に開き膝を曲げターンする一見踊っているような滑りをします。これがテレマークスキーなのです。今、このテレマーカーが増えつつありますし、日本ばかりでなく世界的な現象でもあります。

現代のスキーは高度に分化し専門的になっていて、アルペンスキーは滑降回転をすることに重点をおいて改良されたため、歩く、走るといった動作はほとんど機能しません。クロスカントリースキーは滑降、回転をできなくはありませんが本来の機能は歩く、走るを目的としています。テレマークスキーは、滑る、跳ぶ、回転する、歩く、走る、動作すべてに機能するように作られています。ですから人間の歩行運動がスキーを履いた状態で行えることが、テレマークスキーの基本的な特徴です。



テレマークスキーは踵を固定しないフリーヒール・バインディング（締め具）を使用するため滑降時には不安定な状態になります。しかし踵を固定しないがゆえにできる動作、つまり「スキーの前後スライド」によって、不安定なスキーを安定させることができます。ジャンプ競技の着地の時

ジャンパーがとる姿勢をテレマーク姿勢といますが、まさしく、テレマークスキーの基本姿勢がそこにあるのです。

ここで、スキーの歴史を少し紐どいてみましょう。スキーの歴史は紀元前に遡ります。現在スカンジナビア半島の古代壁画にその証しを見ることができます。

北歐の長い冬の交通手段として、スキーは生活に密着しながら発展してきました。また、軍事的にも冬の戦術として非常に重要だったようです。

生活の一部であったスキーが冬のスポーツとして発展した、いわゆる近代スキーは150年ほどの歴史しかありません。その近代スキーはノルウェー・テレマーク県モルゲダールで始まりました。1825年、このモルゲダールに生れたソンドレ・ノーハイムによって、スキーが持つ三つの要素、滑る（ダウンヒル）跳ぶ（ジャンプ）、走る（ラン）が合理的な技術として体系だてられたのです。

中部ヨーロッパにスキーが伝わるには、少し時間がかかりました。アルプス山岳帯でのスキーには用具の改良が必要だったからです。ウィーン郊外に住ツダルスキーによって締め具が改良され、山岳地に適したスキー技術が生まれました。これがアルペンスキーの始まりなのです。



日本にスキーが伝わったのは、1911年（明治44年）、オーストリア陸軍参謀少佐デオドル・エドレル・フォン・レルヒによって、新潟県高田（現上越市）の歩兵第58連隊に冬期戦術として伝授されたのがはじまりです。

その後、スキー技術は時代とともに急激に発展し、テレマークスキーは歴史の片隅に追いやられてしまいます。しかし、テレマークスキーをよみがえらせたのは、1970年代のアメリカのクロスカンリースキーヤー達だったのです。

話を戻して、ボランティア・レンジャー協議会では3月にはスキーを使った自然観察会を計画していますのでテレマークスキーで参加したいと思っています。

会員の皆さんの中にも、きっとテレマーカーがいられることとおもいます。情報交換をしませんか。一緒に練習できたら最高です。

樹木や地形を観察しながら身近な山をテレマークスキーで登り、下りは優雅なテレマークターンで滑り下りる、そんな会員を探しています。

（スキーの歴史については、「テレマークスキーイング」山と溪谷社を参考にしました。）



立花 隆 助 著

マザーネイチャーズ・トーク

新潮文庫 1996.12.1 発行

定 価 520円

地球上には1兆トンの100万倍もの水があり、その97パーセントは海水といわれています。淡水はそのうち3パーセントにすぎません。私たちが使える河川水は淡水のうちの0.0004パーセントでしかなく、地球全体の水の100万分の1しかありません。

この水が今、工業用水や農業用水として大量に使用されていて、生活用水の確保が近年大きな問題となっています。ここ数年夏季に水不足に悩まされている本州各地の様子がニュースとして流れています。

一方、排水による水質汚染は環境を破壊し、人間を含めた生物の生存を危うくしています。排水による水質の汚染は、工業排水より、家庭より流される排水の量のほうがはるかに多いとの統計もあります。

家庭より流される洗濯排水に関連して、本書のなかで動物行動学の日高敏隆は立花隆との対談で次のように述べています。「…たとえば、アメンボが水に浮いていますね。あれ、水の表面張力を使って浮いているわけです。この力の関係が微妙なんですね。だから、ちょっと洗剤なんか流されて表面張力が落ちますと、ズボッと潜っちゃう。ここで適応して生きていくなんていうことは、まずできないわけです。…」

池や川などの水面をすべるように泳いでいるアメンボは明らかに減っているということでした。

本書「マザーネイチャーズ・トーク」は日本の7名の著名な自然科学者が立花隆と対談形式で語り合っています。あとがきに立花隆は日本の自然愛好家について「…昆虫採集・植物採集などの博物的世界にしか向かわない。個々の自然現象の背後にどんな原理が働いているかを知りたいという、分析的な原理原則の追求という方向に向かう人はきわめて少ない…」との言葉は、私たちの自然に対する姿勢や観察会の在り方についても改めて考えさせられます。

観察会研修会 情報

1月以降のボランティア・レンジャー協議会主催の自然観察会

- ◎「野幌の冬の森 自然観察会」
平成9年2月23日(日) 10:00~12:00
下見 2月16日(日)
集合場所 北海道開拓記念館前
- ◎「滝野の森を歩く 自然観察会」 滝野すずらん丘陵公園
平成9年3月2日(日) 10:00~12:00 下見 3月1日(土)
集合場所 札幌市南区 滝野すずらん丘陵公園溪流口駐車場

1月以降のボランティア・レンジャー協議会が協力する自然観察会

- (野幌森林公園事務所主催)
- ◎「冬の森の観察会」 平成9年3月23日(日) 9:30~14:00 下見 3月16日
集合場所 野幌森林公園内大沢口

開拓記念館の行事 (問い合わせは Ⅸ 011-898-2525)

- ◎ 観察会 「冬の森を歩く」-動物の生活痕- (森林公園事務所と共催)
平成9年2月16日(日) 10:00~15:00
*歩くスキーの用意が必要です。
- ◎ 観察会 「親子でみる森の自然」 -冬芽のころ-
平成9年3月16日(日) 10:00~15:00

研修会

- ◎ 生物多様性シンポジウム・イン北海道 主催 環境庁自然保護局
平成9年2月1日(土) 13:00~17:30 場所 かでの2・7(札幌市北2西7)
- ◎ トークイン・帰化動物とどうつき合うか
平成9年2月2日(日) 13:00~17:00 場所 北海道新聞大通館
問い合わせ エコ・ネットワーク Ⅸ 011-737-7841

【御案内】

滝野の森を歩く 自然観察会

公園内の疎林広場と炊事遠足広場周辺をスキーコースに沿って、樹木や雪の上に印された動物の生活痕の様々を、歩くスキーで観察します。

日時 平成9年3月2日(日) 10:00~12:00

集合場所 札幌市南区 国営滝野すずらん丘陵公園溪流口駐車場

* 3月1日(土) 下見があります。このことについての
問い合わせは、☎ 011-875-6602 (事務局長 佐々木幸夫宅)
* 道を外れた樹木の中を観察しますので、歩くスキーか
かんじきを必ず用意してください。

冬期開園中バス時刻表 (平成9年1月10日~平成9年3月31日)

中央バス滝野線(102) 《毎日運行》

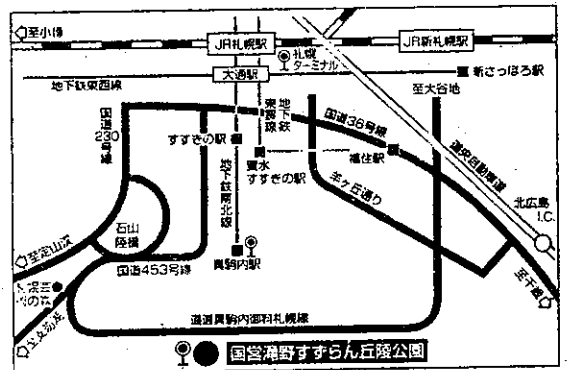
(月寒営業所 ☎(011) 851-2106) 札幌ターミナルより60分 大人560円・小人280円
地下鉄真駒内駅より20分 大人390円・小人200円

行き					
札幌ターミナル(発)	8:27	9:45	11:45	13:30	
地下鉄真駒内駅(発)	8:54	10:12	12:12	13:57	14:35
滝野すずらん丘陵公園(着)	9:25	10:43	12:43	14:28	15:06
帰り					
滝野すずらん丘陵公園(発)	9:40	11:00	13:01	14:40	15:15
地下鉄真駒内駅(着)	10:07	11:27	13:28	15:07	15:42
札幌ターミナル(着)	10:38	11:58	13:59		

市営バス滝野線(南92) 《日・祝日のみ運行》

(藻岩営業所 TEL(011) 581-0161) 地下鉄真駒内駅より20分 (大人390円・小人200円)

行き							
地下鉄真駒内駅(発)	9:05	10:17	13:15	滝野すずらん丘陵公園(発)	11:07	14:00	15:55
滝野すずらん丘陵公園(着)	9:25	10:37	13:35	地下鉄真駒内駅(着)	11:27	14:20	16:15



◎歩くスキーの貸し出し

公園内の「ロッジゆきざさ」で歩くスキーの貸し出しをしています。事前に予約しておく、スキー・靴の確保ができます。

料金 大人 520円 小人 310円

予約、問い合わせ ☎ 591-4433

編集後記

平成9年の新しい年を、全道各地の会員の皆様は、穏やかにお迎えになったことと存じます。元旦の午前中、犬を連れ散歩をしていると、街路樹のナナカマドの実をついばむキレンジャクの群れに出くわしました。キレンジャクの群れに見入りながら、今年も楽しい自然観察ができればとの思いがしました。

北海道新聞 1月4日付に、冬の自然観察会が静かなブームになっていることを報じていました。確かに、大人を対象とした自然観察会は、色々な団体が計画しています。しかし、子どもたちを対象とするそれは極めて少ないのが現状です。そのことに関連して本号で、会員の大久保フヨさんは、未来を担う子どもたちと共に環境問題を考えていきたいとの趣旨の文を寄せていただきました。

長期休業中の子どもたちを対象とした自然観察会の実践等がありましたら、是非事務局にお知らせいただければと思いますし、私たちの会も、21世紀を生きる子どもたちに自然のすばらしさを伝えていく実践活動を積極的に進めていくべきだと思っております。

北海道ボランティア・レンジャー協議会

会報誌「エソマツ」39号 1997.1.20 発行

発行責任者 大友 健

(表紙題字 岡田部 弘保 社務課)

(表紙絵 広報部 三崎 篤)